

BPT(バイオマスプロジェクトチーム)だより No.61

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kankyou-kendo/kankyou/junkan/biomass/index.html>

平成24年5月25日

バイオマスプロジェクトチーム

(環境生活部資源循環推進課)

1. トピックス

○第2回エコフィード利用推進研修会：平成24年1月25日

千葉県畜産協会主催の第2回エコフィード利用研修会が千葉県森林会館で開催されました。

前回の研修会は、食品残さ排出元とエコフィード製造業者とのマッチングに主眼を置いたものでしたが、今回はエコフィードの利用者である畜産農家にスポットを当てました。

横浜市でエコフィードを利用した豚肉を生産している(有)横山養豚の横山清代表取締役社長(はまぼーく出荷グループ副会長)を講師として迎え、「はまぼーくのエコフィード利用と取り組みについて」というテーマで講演をいただきました。

はまポークグループは、エコフィードの利用により生産原価の低減を図り、高品質の豚肉の生産により銘柄化を図っています。

基調講演の後、千葉県エコフィードコーディネーターの進行の下、活発な情報交換が行われました。



2. 国との連携

○カーボン・マーケット EXPO 2012：平成24年3月7日

3月7日に東京国際フォーラムにおいて環境省主催のカーボンオフセットフォーラムが開催されました。

開催に先立ち、環境省地球環境局の梶原審議官が挨拶を行いました。東日本大震災を踏まえて将来のあり方について見直しが必要になっていることを述べ、環境と経済がウィン・ウィンの関係であることの必要性を説きました。

シンポジウムでは、カーボンオフセットの未来について、国連環境計画の末吉顧問が基調講演を行いました。末吉顧問は、クリーンエネルギーの市場規模の拡大、中国の変化(環境、社会との調和に対する考慮等)、キャピタルマーケットなどについて紹介しました。キャピタルマーケットについては、投資に際して金以外のことを考えるESG(環境、社会責任、ガバナンス)格付けについて説明があり、今後の動向が注目されました。成長至上主義の否定についても言及があり、社会全体の価値観の劇的な変化が起きつつあると感じさせる内容でした。

オフセット・クレジット(J-VER)※関連の出展については、ほとんどが森林系で、他の取組と差別化を図ることの難しさに加え、価格の高さも要因となっているためか、多くの取組が販売に苦戦している様子でした。

このような中、三重県大台町の取組では、発行した 2389 トンを完売しており、更に注文を受けるなど際だった取組内容でした。また、J-VER 第一号でもある高知県の取組も、順調に推移しているように見受けられました。

※CO₂の排出量削減は地球規模での重要な課題となっています。産業活動に伴い排出される CO₂は年々増加していますが、過剰な削減義務を課すことで経済活動を停滞させてしまう恐れもあります。

一方、CO₂は植物により吸収され、大気中から固定されます。

この自然界の営みを利用して、植林や森林保全活動などにより吸収される CO₂量の一つの商品と見なしてオフセット・クレジットと名付け、日本では環境省が認証したものを J-VER と呼んでいます。

経済活動により、排出する CO₂ をオフセット(相殺)したい事業者は、自分が排出する CO₂ の全量もしくは一部に相当するクレジット(J-VER)を、植林や森林保全活動を行う団体などから購入することで、その分の CO₂ を排出削減の義務を果たしていると思なすことができ、国際的にも広く認められている制度です。

○ 登録再生利用事業者制度及び食品リサイクルループの形成促進等に関する説明会

3月23日に環境省主催の食品リサイクルループ等に関する説明会が開催されました。

東京情報大学の牛久保学長が「食品廃棄物の実態と食品リサイクルループの形成」という内容で基調講演を行った後、環境省リサイクル推進室の高橋氏が制度に関する説明を行いました。

その後、ユニーを中核としたリサイクルループの取組事例について、ユニーの百瀬部長、中部リサイクル(株)の前川社長、(有)アリタホックサイエンス(千葉県東庄町)の在田代表取締役がそれぞれ説明を行いました。

続いて登録再生事業者の事例として、和郷リサイクルセンターの阿部顧問、小田急フードエコロジーセンターの高橋顧問、バイオエナジー(株)の岸本社長がそれぞれの取組を紹介しました。

事例紹介後、牛久保学長をコーディネーター、事例発表者をパネリストとしてパネルディスカッションが行われました。リサイクルループ構築の注意点、電力の全量固定価格買取制度に既存事業者が参画できない矛盾、メタンの消化液の処理等、多彩な課題が提起されました。

○ 民間活力を活用した畜産技術開発事業成果発表会：平成 24 年 2 月 3 日

(社)畜産技術協会主催の「民間活力を活用した畜産技術開発事業成果発表会」が開催されました。

本事業は日本中央競馬会(JRA)の特別振興資金助成事業で実施されたもので、民間の技術を活用して畜産に関する諸問題を解決しようという研究の支援を企図したものです。本事業により5年間で7課題の研究が実施されましたが、23年度が最終年度ということで本成果発表会が開催され、このうち、バイオマス関係の課題は、「家畜ふんのセメント製造用燃料化技術の開発」と「麹発酵法による食品残渣飼料(エコフィード)の飼料価値評価」の2課題でした。

「家畜ふんのセメント製造用燃料化技術の開発」については、基礎研究が実施され、同様の研究を進めている千葉県にとっては大変参考になりました。

3. 市町村等との連携

○ 市原養豚研究会 第5回定例研修会：平成24年1月20日

市原養豚研究会主催の第5回定例研修会において、現在、千葉県が行っている堆肥燃料の取組を紹介しました。

本研究会は、市原及び千葉市内の養豚農家により構成され、テーマを決めて定期的な研修会を行っています。

取組を始めた経緯、家畜糞のエネルギー利用に関する概況、研究内容、燃料としての堆肥の評価、利用スキームの順で説明し、昨年4月に実施したボイラー試験や10月から開始したセメント・キルンでの堆肥燃料利用とオフセット・クレジット(J-VER)についても紹介しました。

○ 平成23年度木質バイオマス供給体制整備事業：平成24年2月16日

木質バイオマスの中でも利用が進みにくい林地残材に関する現地研修会を行いました。本事業は未利用林地残材の活用を促すために市町村や市民活動団体と連携して実践と研修を行うものです。

23年度は、山武市において市、NPO法人ちば里山センター、山武の森再生計画推進協議会とともに、軽架線を使った伐採木の搬出研修を実施しました。これは、高知県のNPO法人「土佐の森救援隊」が開発した搬出方式の改良版を、山武地域に導入しようとするものです。当日は、山武市「あららぎ館」で講演を行ったあと、農林総合研究センター森林研究所にて実際に材の搬出を行いました。参加者はNPO、森林組合員、企業、個人など総勢104名に上り、この地域での森林に対する関心の高さがうかがえました。



4. 関連業務

○ 試験研究成果発表会

千葉県農林水産技術会議主催の試験研究成果発表会の養鶏部門が2月8日、同養豚部門が2月22日にそれぞれ開催されました。両部門において、県畜産総合研究センターで実施されたエコフィードに関する研究成果が発表されました。

養鶏部門では、採卵鶏でのエコフィード利用(天粕)に関する発表が行われました。従来、廃棄されていた天井チェーンから排出される天粕を飼料として有効活用するという取り組みで、天粕そのままを利用するのではなく、搾油機を活用して天粕を搾ったものを飼料として活用しました。現在、畜産分野では飼料用米の活用が進められていますが、採卵鶏において粳米の配合による代謝エネルギーの低下を補う油脂分として天粕の有効性が確認されました。

養豚部門では、食品残渣のうち規格外せんべいを粉砕したものを肥育後期の豚に給

与し、発育・肉質について調査した研究成果が発表され、15%程度までの配合であれば、対照区と比べて遜色ない豚肉を生産することができるとの結果が示されました。

○ 千葉県エコフィードコーディネーター設置事業 第3回利用推進会議

本年度3回目のエコフィード利用推進会議(構成員：エコフィード製造業者、畜産農家、研究機関、関係行政機関等)が2月24日に開催されました。本年度最後の利用推進会議ということで、千葉県エコフィードコーディネーターによる食品残さ排出元の現地調査に関する報告が行われた後、事業全体に対する総括及び今後の推進方向に関して協議を行いました。今後、情報が集まってくることで、情報が情報を呼ぶ集積の効果が出てくるものと期待されます。

○ ちば大地と海の恵み商談会

1月18日に幕張メッセ国際展示場において開催された「ちば大地の海の恵み商談会」(主催：千葉県他)において、千葉県畜産協会が近々発行予定の堆肥燃料を活用したオフセット・クレジット(J-VER)の販売に向けたPR活動を行いました。

県内外の多数の企業関係者の方々にお越しいただき、7月に予定している発行及び販売開始に向けて貴重なPRの機会となりました。



○ 第2回かずさビジネスマッチング交流会

2月9日に木更津市のオークラアカデミアパークホテルで開催された第2回かずさビジネスマッチング交流会において、千葉県と太平洋セメント(株)は堆肥燃料の取り組みを紹介しました。

本交流会は、かずさアカデミアパークに立地している企業を中心に地元企業と交流を図り、業務提携・取引拡大を目指した取り組みです。これらの参加企業を対象に堆肥燃料の取り組みを紹介し、近々発行予定のオフセット・クレジット(J-VER)の販売に向けてPR活動を行いました。



5. 普及啓発活動

○ 木質プラスチック普及活動の実施

下記イベントにおいて、千葉県産木質プラスチック製品の普及等バイオマスの啓発活動を行いました。

- ・3月4日 : Present tree for さんむ日向の森(山武市日向の森)
- ・3月23～25日 : フラワー・アンド・ガーデンショウ(幕張メッセ)

○ その他啓発活動の実施

- ・2月17日 : 出張授業(南房総市立丸山中学校)
- ・3月14日 : バイオマス普及啓発講演会の開催(180名参加)
- ・3月20日 : 公開講座(行徳野鳥観察舎)
- ・3月25日 : きやっせ物産展へのパネル出展(生活協同組合ちばコープ主催)